

# 北東アジア観光交流の実践 北東アジア国際観光フォーラム IFNATからの報告

公益財団法人 食の新潟国際賞財団常務理事  
IFNAT 幹事長  
鈴木伸作

## IFNAT誕生から未来へ

- (1) 誕生の原点と経緯 (設立目的・趣旨)
- (2) 開催の歴史
- (3) 苦勞と成果 (支え動かした人々)
- (4) IFNATに求められているもの
- (5) これからの活動と展望

## 出発点

1. 環日本海経済研究所（ERINA）の北東アジア地域における輸送回廊調査において物流・人流の新たなルート策定する過程で国境を越えての国際観光の重要性が指摘される。
2. 北東アジア観光研究会（会長 元参議院議員 関山 信之氏）新潟・東京を中心とする大学・研究所・旅行業・ERINAが集まり北東アジア地域の国際観光の振興と新しい国際観光ルートを提言
3. 第1回フォーラム開催（中国大連市・遼寧省人民政府主催）研究会の提言を基に、国際観光分野の北東アジア地域間の協力と連携をテーマに5ヶ国（日本・中国・韓国・ロシア・モンゴル）の産・官・学が参加して開催。フォーラム継続開催を確認。
4. 東北アジア観光学会（TINA）と共同開催（第4回会議から）（第2回IFNAT(大邱市)で参加した日本と韓国の大学・研究者で設立）

## IFNAT開催の基本

1. 開催の主体・受け入れ  
地方自治体の受け入れによる開催を基本とする  
開催地は北東アジア地域を5ヶ国巡回する形式
2. 作業及び費用分担  
受け入れ側（会場・設営・エキスカージョン・歓迎交流会）  
参加者（旅費・宿泊費・会議参加費）  
IFNAT（参加者募集・集約・フォーラムの運営）
3. テーマ  
基本テーマ「北東アジア地域における国際観光の振興と連携協力」  
サブテーマ 開催地からの要望をテーマに入れる
4. 付帯事業  
学生スピーチコンテスト、文化行事・観光視察・イベントへの参加、

# 北東アジア国際観光フォーラム ( I F N A T ) International Forum on Northeast Asian Tourism

第1回会議 2004年 8月 (大連会議)

設立目的 「観光は平和へのパスポート」  
国際観光が地域間の相互理解、地域経済の振興、雇用確保  
文化・スポーツ・都市間交流に大きく寄与することから北  
東アジア地域間の国際観光の発展に向けて情報交換と提言  
を行う。

事業概要 国際観光の振興と発展についてのフォーラムの開催

連携団体 (社) 東北アジア観光学会 (TINA) 本部 韓国 大邱市  
(観光を研究・学ぶ大学・研究者・学生による学会)  
第2回IFNAT参加研究者で研究者組織を立ち上げた。

参加地域 日本、中国、ロシア、韓国、モンゴル

## 北東アジア



## 主なIFNAT開催都市



中国  
ハルビン



韓国  
大邱



ロシア  
ハバロフスク



韓国 全州市



モンゴル  
ウランバートル



## 北東アジア国際観光フォーラムの開催 (1)

回	開催年	会場	主催者・実行組織	参加国・参加者数
1	2004年 8月	中国 大連市	遼寧省人民政府、 北京・遼寧社会科学院	中国・日本・韓国 50名
2	2005年 3月	韓国 大邱市	大邱市庁 韓国観光公社	中国・韓国・日本・ ロシア 100名
3	2006年 9月	日本 新潟市	新潟県、新潟市、 環日本海経済研究所、	中国、日本、韓国、 ロシア、モンゴル 350名
4	2007年 11月	韓国 束草市	江原道庁 束草市庁 TINA	中国、日本、韓国、 ロシア、モンゴル 200名
5	2008年 10月	モンゴル ウランバートル市	モンゴル国、 ウランバートル市	中国、日本、韓国、 ロシア、モンゴル 200名
6	2009年 5月	ロシア ハバロフスク市	ハバロフスク州政府 ロシア観光連盟	中国、日本、韓国、ロシア、 モンゴル 130名
中止	2010年 10月	中国黒龍江省 ハルビン市	黒龍江省社会科学院 黒龍江省政府	中国、日本、韓国、ロシア、 モンゴル 200名
7	2012年 2月	日本 新潟市	IFNAT、新潟市 (ハルビン会議の代替)	日本、中国、ロシア、韓国 モンゴル 100名

## 北東アジア国際観光フォーラムの開催（2）

8	2012年 8月	韓国 全羅北道 全州市	東北亜細亜観光学会 (TINA) IFNAT日本委員会	韓国、日本、中国、ロシアモンゴ ル 300名、
9	2013年 8月	韓国 慶尚北道金泉市	東北亜細亜観光学会 IFNAT、金泉市	韓国、日本、中国、 モンゴル、 450名
10	2014年 8月	日本 北九州市	IFNAT、北九州市 東北亜細亜観光学会	韓国、日本、中国、 モンゴル、ロシア170名
11	2015年 8月	モンゴル ウランバートル市	モンゴル国政府 ウランバートル市、IFNAT	モンゴル、日本、韓国 中国、ロシア 223名
12	2017年5月	ロシア ウラジオストク市	沿海地方政府 IFNAT・TINA	ロシア、日本、韓国、中国モンゴ ル230名
13	2018年 8月	日本 大分市	IFNAT、TINA 大分市	日本、韓国、中国、モンゴル、ロ シア180名
14	2019年 8月	中国黒竜江省 ハルビン市	黒龍江省社会科学院 黒龍江省政府 IFNAT	中国、ロシア、モンゴル 日本、韓国 190名
15	2020年 11月	韓国 慶尚北道 安東市	慶尚北道庁、安東市 TINA	韓国 (WEB参加) 日本、中国
16	2021年11月	韓国 慶尚北道 慶山市・大邱市	慶尚北道庁、慶山市 TINA	韓国 (WEB参加) 日本、中国

### IFNAT基調講演者（日本代表）

2004年（第1回） 中国・大連

北東アジア観光学会代表 関山信之氏 「北東アジア地域の観光交流のあり方」

2005年（第2回） 韓国・大邱市

東洋大学 教授 佐々木宏茂氏 「北東アジア観光都市の振興」

2006年（第3回） 日本・新潟市

北東アジア観光研究会代表 関山信之氏  
「東北アジア地域内交流の活性化」

2007年（第4回） 韓国・束草市

北東アジア観光研究会 代表 関山信之氏 「北東アジア観光の振興手法」

2008年（第5回） モンゴル・ウランバートル

桜美林大学 教授 鈴木 勝氏 「北東アジアの観光の振興手法」

2009年（第6回） ロシア・ハバロフスク

ERINA理事長 吉田進氏 「北東アジア地域の観光振興とIFNATの役割」

2012年（第7回） 日本・新潟市  
桜美林大学 教授 鈴木 勝氏  
「日本を取り巻く最近の国際観光と“観光立国”日本」

2012年（第8回） 韓国・全州市  
桜美林大学教授 鈴木勝氏「国際観光の現況と大震災から復活する日本」

2013年（第9回） 韓国・金泉市  
新潟県議会議員 矢野 学氏 「田舎体験観光を通じた交流人口の拡大」

2014年（第10回） 日本・北九州市  
三条市長 国定 勇人氏  
「ものづくり・伝統文化を活かした三条市活性化」

2015年（第11回） モンゴル ウランバートル市  
日本政府観光局（JNTO）インバウンド戦略部次長 広瀬正彦氏  
「日本政府観光局の役割と戦略」

2017年（第12回） ロシア ウラジオストク  
大阪観光大学名誉教授 鈴木勝氏  
「いかに北東アジア観光を発展させるか」

2018年（第13回） 日本 大分市  
国土交通省観光庁 国際観光課 総合計画室長 苔口 聖史氏  
「日本における国際観光の振興策」

2019年（第14回） 中国 ハルビン市  
大阪観光大学名誉教授 鈴木 勝氏  
「いかに北東アジアの国際観光を促進させるか」

2020年（第15回） 韓国 安東市（WEB/リアル）  
大阪観光大学名誉教授 鈴木 勝氏  
「国際観光とCOVID 19 ーその影響と活性化ー」

2021年（第16回） 韓国 慶山市（WEB/リアル）  
JNTO 日本政府観光局 海外プロモーション部次長 橋本佳憲氏  
『日本におけるWith新型コロナ時代の国際観光振興と北東アジア間の連携』



IFNAT

第3回北東アジア国際観光フォーラム (IFNAT) 新潟大会  
覚書

2006年9月19日、新潟市において開催された「第3回北東アジア国際観光フォーラム (IFNAT) 新潟大会」は、北東アジアの域内交流の活性化と新潟観光の振興をテーマに活発な意見交換を行い、大きな成果を挙げた。

中国、モンゴル、韓国、ロシアから約150名、開催国・日本から約200名、合計約350名が参加。5カ国代表による基調講演やディスカッションに加え、北東アジアの観光振興、インフラ整備、日本向け観光客増加策に関する3つの分科会で、具体的な議論に踏み込んだ。

なかでも、第3回 IFNAT 新潟大会実行委員会からは、「北東アジア観光開発のための共同戦略策定の提案」が提起された。北東アジアの観光振興を図る上で重要な提案であり、参加者は今後、この提案を検討し、具現化を目指してより緊密なネットワークを組んでいくことを確認した。

さらに、17日から18日に行われたプレフォーラムツアーでは、日本の地方の美しさを代表する新潟の観光資源が海外参加者に紹介され、20日に行われる商談・交流会では、多くの観光ビジネスマッチングが期待される。

参加者は、近い将来開催される、第4回 IFNAT にも、大きな期待を寄せるものである。

2006年9月19日 新潟市

YIN, Zhongyuan  
Deputy Director, Liaoning Province Tourism Bureau, China

WANG, Yongsheng  
Deputy Director, Heilongjiang Province Tourism Bureau, China

NERGUI, S.  
President, Juulchin World Tours, Mongolia

PARK, Heung-Seo  
President, Korea Total Economic Research Institute, ROK

Lee Hee Do  
Chairperson, Daegu Tourism Association, ROK

SELUKOV, Vitaly  
Director General, Department of Tourism  
Ministry of Economic Development and Foreign Relations  
Khabarovsk Krai, Russia

NEPOMNYASHCHAYA, Elena  
Vice-Chairperson, Primorsky Territory Administration Tourism  
Committee, Russia

KOJIMA, Takashi  
Tourism Planning Supervisor  
Niigata Prefectural Governor's Office, Japan

SUZUKI, Shinsaku  
Director General, Industry & Economics Bureau, Niigata City  
Government, Japan

PAC テンプレート

A4 タテ (210mm×297mm) 表面

※上より緑まで複製の複製がある場合は、  
ここまでメリタシをご考慮下さい。  
(※複製時の色合いが多少異なる場合がございます。  
この位置で複製されます。)

2015年北東アジア国際観光会議

in ウランバートル市

「第11回北東アジア国際観光フォーラム (IFNAT)」

「第9回東アジア観光学会 国際学術大会」

北東アジア国際観光フォーラムは「観光は平和へのパスポート」を合言葉に北東アジア地域(日本・韓国・中国・モンゴル・ロシア)の国際観光の発展に向けて、観光を通じての連携と協力を拡大することを目的に2004年から各国を巡回し開催してまいりました。

2015年はモンゴルのウランバートル市において北東アジア国際観光フォーラムと東アジア国際観光学会との共同開催で開催いたします。国際観光会議はモンゴル国政府及びウランバートル市の支援と協力により開催されます。是非、素晴らしい大草原と豊かな観光資源を持つウランバートルで御会いしましょう。皆様を心から歓迎いたします。

2015年3月  
ウランバートル市長 E. Bat-Uul 北東アジア国際観光フォーラム会長 小島 隆 (社)東アジア国際観光学会会長 幸 謙 博

○開催月日 2015年8月20日(木)～21日(金)

○開催地 モンゴル国 ウランバートル市

○目 的  
北東アジア地域における観光の発展と地域間の協力連携を促し、観光を通じて地域の経済発展に国際交流の活性化と発展を目的とする。

○会議テーマ  
「北東アジアの観光発展とMICEの振興を目指して」

○開催テーマ  
①観光産業の発展と地域活性化、観光を通じて  
②観光の発展とMICEの振興  
③観光産業の発展と地域活性化、観光を通じて

○参加国 モンゴル、日本、ロシア、韓国、中国、  
○参加機関 内務省、地方自治体、観光関連団体、観光関連企業、研究者、大学、研究機関、  
観光学会等  
○参加資格 (1) 参加申し込み 7月10日(金)までに参加登録費を返付ください。  
(2) 発表・発表者の登録締切 7月24日(金)まで(要届出書)  
(3) 原稿 A4用紙4枚まで、英語及び韓国語、(ワード10P)

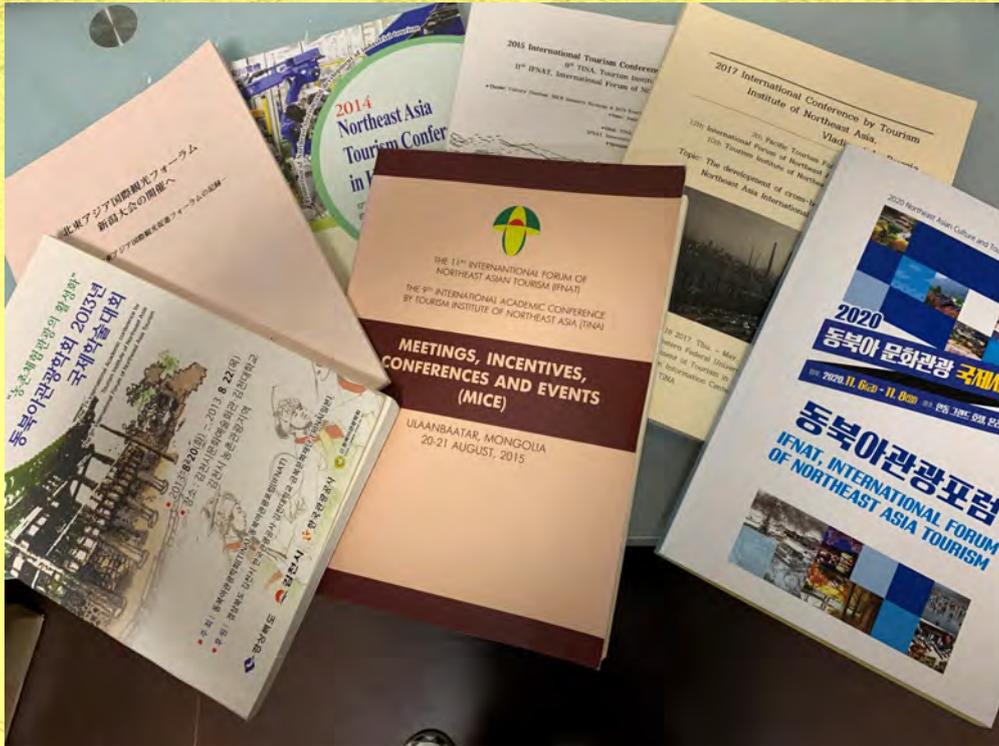
○参加費 (1) 一般 400米ドル (2) 学生 250米ドル

※原稿のフォーマットは  
※発表資料のフォーマットは  
※発表資料のフォーマットは

○事務局 (参加申込み先)  
北東アジア国際観光フォーラム日本委員会事務局 (IFNAT)  
愛宕商事株式会社 総務部長 田中 潤雄 E-mail: soidima.k@stagnary.co.jp  
TEL: 025-365-0001 FAX: 025-228-4885

○主 催 北東アジア国際観光フォーラム、(社)東アジア国際観光学会  
○共 催 ウランバートル市  
○協 賛 モンゴル国政府、モンゴル観光協会、モンゴル国観光工業局、  
○協力団体 (公財)東日本経済研究所(ERNA)、NPO法人北東アジア観光振興ネットワーク、  
NPO法人日中観光推進機構

※データ作成時の注意事項  
※透写機・影・ぼかし・パターン・グラデーション等の効果は、ご使用にならないようお願いいたします。  
※これらの効果は印刷には考慮いたしません。印刷上では多少にずれが生じますが、弊社で印刷用のデータに  
変更する際にお客様の承認いただいた上で行なってまいりましょう。ご留意ください。  
(詳しくは弊社ホームページをご覧ください。)









## なぜ会議は継続できているのか

1. 支え動かした人達
2. ネットワークの構築
3. 各国地方自治体の国際観光への関心と共通課題
4. 継続は力なり

## (1) 会議を支えた人々

小島 隆氏（JTB出身、新潟県観光企画監、新潟県議会議員）

三橋郁雄氏（ERINA特別研究員、NEANET 副会長）

鈴木 勝氏（JTB出身、大阪観光大学名誉教授）

李 應珍氏（東北アジア観光学会会長、大邱大学校教授）

笄 志剛氏（中国黒竜江省社会科学院東北アジア研究所長）

張 広瑞氏（元中国社会科学院 旅游研究センター主任）



## (2) ネットワークの構築

ERINA（環日本海経済経済研究所）の存在と人脈

日本国政府とのパイプ（観光庁・政府観光局JNTO）

地方自治体の姉妹都市交流における関係（新潟市）

（社）東北アジア観光学会（TINA）の協力と連携

素晴らしい人々

### (3) 各国地方自治体の国際観光への関心と共通課題

地方自治体の地域間競争の高まり

国際観光の地域振興の切り札と地域再生への願い

北東アジア諸国（中国）の富裕層増加と国内旅行の高まり  
→海外旅行への移行と観光人口の増加

国際観光の経済的波及効果への注目と観光の再評価

MACEの高まり（主要都市から地方都市へ）

### (4) 継続は力なり

観光が基幹産業であることの共通認識

参加者のネットワーク存在

Withコロナ下での新しい国際観光の在り方を模索

コロナ禍による観光への変わらぬニーズ

観光を学ぶ学生と観光分野の研究者の増加

## 今後のIFNATに求められるもの

- (1) 運営組織の再構築 (事務局の設置)  
(日本国内他団体への引継ぎOR東北亜観光学会に移管)  
財政基盤と事務局体制の確立
- (2) ネットワークの再構築  
新しい参加者への呼びかけ  
各国関係者への再結成への提言と活動  
若い学生・研究者の参加
- (3) Withコロナ下での会議の開催方式の転換  
(WEB会議とリアル会議の併用による経費の削減と  
開催地の負担軽減)

ご清聴ありがとうございました。

今後ともIFNATの活動に御協力ください。